



「いつかはゆかし」では、積立の停止や減額、一部引き出しも自由だ。このような柔軟さも、長期の積立投資による自分年金

5年後すら、わからないからこそ、しっかり確認した柔軟性
 市況に応じてポートフォリオの中身を組み替えられるのも「いつかはゆかし」の特徴だ。「近年は市況の変化が激しいので、柔軟にファンドを組み替えていく必要がありますし、年齢によってもアクティブ運用から保守的な運用に切り替える場面も出てくるでしょう。同じファンドへの積立ではなく、途中で切り替えられるのも「いつかはゆかし」の魅力です。担当者もこちらのリテラシーに合わせて説明してくれたのでスムーズに始めることができました」(浜田氏)。

「いつかはゆかし」では、積立の停止や減額、一部引き出しも自由だ。このような柔軟さも、長期の積立投資による自分年金

「いつかはゆかし」では、積立の停止や減額、一部引き出しも自由だ。このような柔軟さも、長期の積立投資による自分年金

老後の不安に対してはやるべき手は打った
 浜田氏の視線はすでに次なるステップアップに向けられている。グローバルな競争で勝ち残る人材を目指し、海外のビジネススクールに通いたいというのだ。

1億円貯めよう 「いつかはゆかし」体験談

不透明な時代を生き抜き、30年後も充実した人生を送るために、今できることは何か――。今回は、アブラハム・プライベートバンクの自分年金積立サービス「いつかはゆかし」をリスクヘッジに活用しながら、30年後もサバイバルできる人間を目指す、39歳の男性を紹介しよう。その前向きな生き方にはたくさんのヒントがあるはずだ。

将来のリスクヘッジという意味で積立は必要

大手外資系IT企業に勤める浜田孝之さん(仮名・39歳)は、米国会計士の資格取得TOEIC900点以上、中国語も不自由なく喋れ、年収もあり、一見不自由なく見えるがなぜ資産運用をするのだろうか？
 「公的年金が、貰えたとしてもたかが知れた金額。半面、医療技術は発達していきますので、長生きすると考えると、やはり今のうちから何かしら考えて動いておかないと、本当に自分が年をとった時どうなってしまうんだろうという不安は昔からあったんです。20年後、30年後に日本という国がどうなっているかという、今より豊かになっているとは絶対思えないんですよ。人口減少で競争力が低下している日本に暮らしているわけじゃないですか。国力が弱くなれば日本は弱くなりますから。今1万円の価値が20年後に同じ価値かという、私

はそうは思わない」と浜田氏は強調する。5年先も見えない時代に、30年後もサバイバルできる人間になること、そのリスクヘッジとして長期積立は必要だ、と浜田氏は考えていた。

金融工学を学んだ自分には大手証券会社のセールスは売りシグナルだった

大学院で金融工学を学んだ浜田氏は在学中から口座を開き、株、投信、金銀、不動産など様々な投資商品を経験したという。「銀行の定期預金にあずけていても数万円程度しか増えないので、やはり利回りの高い物を求めてしまいます」(浜田氏)。
 例えば中国株。中国の成長性に魅力を感じた浜田氏は中国株に投資したが、2006年頃に手を引いたという。「その頃、日本国内でも中国株ブームが過熱し始めたので売却し、大きな利益を得るこ

とができました。そういう意味では日本の大手証券会社っていい売りのシグナルを出してくれるんですよ。証券会社が商品化してセールスを強化した時点で売るのが一番いい(笑)。証券会社の言う通りにすると投資家は損すると思うか、それで証券会社は儲けているのですよね。」浜田氏は国内証券会社の「限界」を自らの投資経験を通じて知った。

短期売買を求めると絶対失敗する経験則から長期積立が一番いい

「いつかはゆかし」では、投資家は海外優良ファンドの中から興味のある商品を選択。自宅に居ながらファンドを直接積み立て、老後資金「1億円」を目指す。アブラハム・プライベートバンクは、海外優良ファンドへの分散投資などを通じて、若いときは高い期待リターンを、定年に近づくと低い期待リターンを得るように投資家にアドバイスする。納得した浜田氏は2013年1月から毎月5万円を積立を始めた。

いつかはゆかし 自分年金積立サービス

●入会金 19,800円(税込) ●投資助言料 投資残高の0.945%/年
 月5万円で1億円を目指したいすべてのひとへ。
 いつかは ゆかし
 itsukaha-yucasee.jp

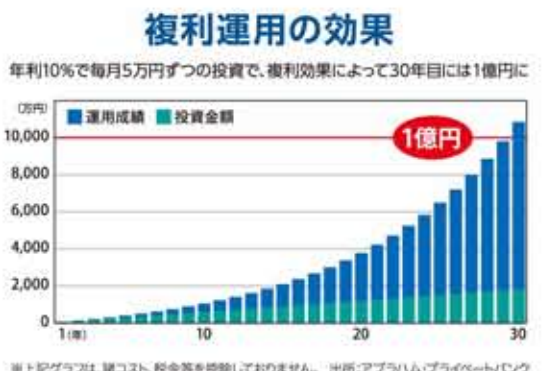
投資助言会社 アブラハム・プライベートバンク
 「日本人の金融リテラシーをグローバルスタンダードに近づけることで、将来不安を抱えるすべての人を安心へと導く」をビジョンに掲げる日本最大の海外投資専門の投資助言会社。自分年金積立サービス「いつかはゆかし」のほか、海外投資コンサルティング「ゆかしスタイル」、海外ファンドのトラブルを解消する「海外ファンド救済センター」を運営している。ビジネスモデル特許出願中(特願2012-279557)

個人投資家が選んだ積立したい商品・サービス **第1位**
 2012年12月調査協力賞受賞

急成長企業ランキング **2年連続受賞**
 伊和100トップ

ただいま TVCM放送中

2013年3月末現在 アブラハム・プライベートバンク調べ
 日本取引/口座 Fast50 太平洋アジア地域取引/口座 Fast100



Abraham Private Bank アブラハム・プライベートバンク株式会社
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-12-1 虎ノ門ファイコービル5F お問い合わせ:0120-104-359 (9:00~20:00 月~土曜、日祝休み)

金融商品取引業者(投資助言・代理業) 登録番号 関東財務局長(金商)第332号 一般社団法人日本投資顧問業協会 会員番号011-01344

※この広告の内容は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。※投資助言の対象となる金融商品には、各種金融商品相場の変動等により元本欠損が生じるおそれがあります。※積立残高は投資される海外ファンドの運用成績等により異なるため、積立期間終了時の積立残高が保証されているわけではありません。※入会金1万9800円。投資を実行した際は最大で0.945%/年間の投資助言手数料が発生します。※ご入会の際は、会員規約、契約締結前交付書面、投資助言契約の内容についてご理解・ご同意頂いた上、投資助言契約の締結が必要となります。*調査は当社の企業設計に基づき富士経済が協力実施